参考資料３

第２回渡良瀬遊水地エリア検討部会
議事要旨

【概　要】

日　　時	平成 28 年 9 月 20 日（火）　10：00～12：20
場　　所	栃木市藤岡遊水池会館 2 階大会議室
議　　事	（1）前回会議の意見について （2）「関東地域におけるコウノトリ・トキを指標とした生態系ネットワーク形成基本計画」の紹介 （3）渡良瀬遊水地エリアの現状・課題について （4）現在進行中のプログラム・メニュー例について （5）今後の展開・進め方について
配布資料	１．　議事次第 ２．　出席者名簿 ３．　出席者席配置図 ４．　検討部会規約・名簿 ５．　資料１：前回会議の意見 ６．　資料２：「関東地域におけるコウノトリ・トキを指標とした生態系ネットワーク形成基本計画」（概要版） ７．　資料３：渡良瀬遊水地エリアの現状と課題について（案） ８．　資料４：現在進行中のプログラム・メニュー例 ９．　資料５：今後の展開・進め方について（案） １０．参考資料１：第１回検討部会議事要旨 １１．参考資料２：第１回渡良瀬遊水地エリア エコロジカル・ネットワーク推進協議会議事要旨 １２．参考資料３：「関東地域におけるコウノトリ・トキを指標とした生態系ネットワーク形成基本計画」（平成 28 年 3 月策定）
出 席 者	【第２回渡良瀬遊水地エリア検討部会　配付資料「出席者名簿」のとおり】
会議風景	

【内　容】（敬称略）

■開会

（事務局）開会の宣言と会員の変更のお知らせ

■あいさつ

（議　長）本日は第 2 回の検討会となる。今回、プログラム・メニューなどをまとめて頂いた。そうした中で、エリア内で数多くの取組みが進行中であることがわかった。渡良瀬エリアの現状と課題については、今回である程度整理したいと思っている。資料を見ると、ラムサール条約の 3 本の柱である湿地の保全・再生、ワイズユース、交流・学習といった、この場所、エリアでの大まかな形が見えてきている。今回の議論が渡良瀬遊水地エリアらしいアクションプランの策定に結びつくことを期待したい。

■議事 1：前回会議の意見について

※事務局より「資料 1：前回会議の意見」の説明

■議事 2：関東地域におけるコウノトリ・トキを指標とした生態系ネットワーク形成基本計画」の紹介

※事務局より「資料 2：「関東地域におけるコウノトリ・トキを指標とした生態系ネットワーク形成基本計画」（概要版）」の説明

■議事 3：渡良瀬遊水地エリアの現状・課題について

※事務局より資料３：「渡良瀬遊水地エリアの現状と課題について（案）」の説明

■議事 1、2、3 についての質疑

（関係団体）資料 3 の 2 ページの「高茎草地」の漢字が間違っている。資料 3 の 6、7 ページの環境評価について、7～9 月の渡良瀬遊水地の生息環境が非常に適した状態となっているが、ヨシ原はコウノトリの生息環境としては適さないと思うので、ヨシ原の部分の適性が高くなっていることは間違いではないか。

（事務局）渡良瀬遊水地内においては、利根川上流河川事務所がサンプリング調査を実施している。サンプリングデータは、水深は 30 ㎝以浅で草丈は 40 ㎝以下の場所のものである。コウノトリが餌を採れる環境に合わせて数値を代入した。スケール感によって、どこまで正確かという部分もあるが、ご指摘のあった点も留意して評価している。

（関係団体）生息可能と示された面積全域から算出して 2、3 ペアのコウノトリの生息が可能としているのか。また、ペアを想定しているが、その子どもたちの餌量も考慮しているのか。

（事務局）豊岡市で繁殖しているペアの巣塔から半径 2 ㎞圏内の餌資源量を土地利用に併せてサンプリング値を入れて算出している。それと比較して多いか少ないかを示している。あくまでも豊岡市でコウノトリが生息・繁殖できている餌量と比較して、同じ量であれば渡良瀬遊水地エリアでも繁殖できるだろうということを示している。

（関係団体）資料 3 の 5-7 ページの結果は、3 カ月区切りで評価しているが、実際には時期によって水田の環境は大きく変化する。6 月と 7 月はほぼ同じ状態と思うが、8 月と 9 月は大きく異なる。小山市での「なつみずたんぼ」の取組みは、重要な施策と考えている

ので、どこかで紹介するなどの対応をして欲しい。

（事務局）兵庫県が実施した調査データと比較しているため、そこでの調査方法、調査時期と合わせている。現状では、この調査データと比較するしかない。計画等の一覧については、基本計画レベルを示して、具体的なものはまだまだ紹介できていないので、これから充実させていきたい。

（関係団体）8 月と 9 月は大きく環境が異なっているということを、どこかで示しておいて欲しい。

（有識者）私は野田市で 2014 年、2015 年、2016 年に田んぼの生きもの調査を実施している。毎月の頻度で調査を実施している。調査の結果、6 月と 7 月の結果は似ている。1 月、2 月、3 月は田んぼに水がないので、生きものがいない。7～9 月は畔の調査結果は似ている傾向が見られている。少しでも長く、関東にコウノトリが滞在してもらえるように、一つ一つの取組みがつながっていくことが重要である。試験放鳥したコウノトリの滞在した時間データが蓄積されているが、滞在時間が長い場所と短い場所では餌量が大きく異なっていた。そうした情報を会議に出してもらえれば、具体的なイメージが持てると思う。

（議　長）様々な情報があると思うので、事務局で収集し会議で示してもらいたい。

（有識者）餌のポテンシャルから見たマップを示したことは、ひとつの試みとして非常に良いと思う。餌だけでなく、生息の物理環境もマップ化し、既存のマップと重ね合わせることで評価されていくと思う。資料３の 7 ページに 2～3 ペアほどのコウノトリが生息できるとあるが、この数値は立派なものなのか。また、2 ㎞圏のなわばりを考えた際に、いくら渡良瀬遊水地で環境整備を行ったとしても、その 2 ㎞圏内に集約されていたら、コウノトリの生息は増えないのではないのか。

（有識者）コウノトリは巣立って 1～2 年では親鳥にならない。繁殖するまでの間に、いろいろな場所を利用する。このエリアで繁殖できることが目標であるが、若いコウノトリがこのエリアで生息できるという視点も長い目で見て重要だと思う。

（有識者）なわばり 2 ㎞の制約が必要不可欠な条件なのか。目標像に科学的な根拠を示していく上で、このマップの精緻化を今後進めて欲しい。

（事務局）この比較評価法については、これまでに多様な先生方からご指摘を受けており、ロジックとしては説明できるが、別の評価方法もあるのではないかと言われている。物理環境の視点から、野田市が試験放鳥したコウノトリが滞在した場所を広域レベルで評価することを関東地方整備局が試みている。まずは、現段階の生息環境評価のマップは議論を呼び起こすためのものと理解していただきたい。

（有識者）コウノトリは中国やロシアでは、田んぼをほとんど利用していない。河川や水辺などの湿地を餌場として利用している。豊岡や佐渡では、ほとんどの餌場が水田であり、中国やロシアと異なっている。これからの課題は、餌場の多様性が必要である。渡良瀬遊水地の周辺だけを見ると、コウノトリやトキの餌場としては、まだ餌となる生物が少ないと思う。餌生物の生息環境の整備には時間がかかる。時間をかけて、餌場の整備が必要である。

（関係団体）気象状況の観点で言えば、今年は 7 月に渇水状態であった。渇水状態では生きものが生息できない。月によって、生物の生息状況が大きく異なることに注意して見てもらいたい。自治体が取り組んでいる情報が掲載されているが、板倉町の田んぼではシギ・チドリ類やサギが多く生息している。自治体によっては、そうした状況を調査し

ていないので、要望であるが、板倉町には生きものの生息状況を調査してもらいたい。

（有識者）資料３の 11 ページにある渡良瀬遊水地エリアの課題と対応にある「農地等における生物多様性を育む農業基盤の整備」とあるが、水田や水路等の整備を想定しているのであれば、「農業生産基盤の整備」と記した方が良い。基盤整備とともに既存の水路等を対象とした生息環境の修復等の概念も盛り込んで頂きたい。

（議　長）コウノトリ・トキの定着に関する留意事項、目標設定などに関して、新たに加えるべき視点、渡良瀬遊水地ならではの目標設定などについてご意見を頂きたい。

（有識者）渡良瀬遊水地エリアの特徴を考えると、治水と遊水地との関係がユニークな部分である。この観点を利根川流域に広げていけないかと考えている。利根川上流河川事務所が管轄する遊水地には、渡良瀬遊水地以外に田中調節池、菅生調節池、稲戸井調節池の 3 箇所あるが、治水と連携したモデルとして渡良瀬遊水地での取組みの良さを広めていく視点をどこかに示すべきである。

（有識者）様々な取組みをする中で、何がどう変わったのかを評価する取組みが必要である。魚道を作ったことで、外来種が進入してしまった等の事例も起きる可能性があるので、リスクを想定したまとめ方を加えて欲しい。

（有識者）兵庫県の円山川では、治水と上手くリンクさせた湿地再生などを河川の中で行っている。先ほどの生息環境評価のマップを見ても川の環境が貧弱である。川の中の治水とリンクした形の湿地再生などが、コウノトリの野生復帰に結びつけばと思う。下流 3 池（田中調節池、菅生調節池、稲戸井調節池）は、下流の治水安全度を上げるために、時間的なゆとりがない。渡良瀬遊水地は、下流３池よりは時間があると思う。長期的には、湿地再生という視点も加えながら、短期・長期の両面からの検討が必要である。

（関係団体）資料３の 4 ページの表に堤内地と堤外地の餌生物量が記載されているが、どうして異なるのか、後でも良いので教えて欲しい。ヨシ焼きについては、コウノトリの営巣等がある際は、配慮が必要とのことであるが、昔からヨシ焼きは地元で行われており、今の遊水地の環境を維持するには、ヨシ焼きが必要である。また、レジャー利用の面では、臨時的に飛行エリアを設定するなどの記載があるが、そのあたりは利用者と調整・話し合いが必要である。

（有識者）資料３の 11 ページにある指標種の設定について、コウノトリ・トキの他にタンチョウなども加えても良いのではないか。

■議事 4：現在進行中のプログラム・メニュー例

※事務局より「資料４：現在進行中のプログラム・メニュー例」の説明

（議　長）自治体の方々には、引き続きプログラム・メニューに関連する情報提供をお願いしたい。また民間団体の取組みについての情報提供もお願いしたい。

■議事 5：今後の展開・進め方について

※事務局より「資料５：今後の展開・進め方について」の説明

■議事 4、5 についての質疑

（関係団体）新たな指標種の追加とあるが、何か想定している指標種はあるのか。

（議　長）新たな指標種については、会員の方から提案してもらうことを想定している。

（関係団体）ヨシ原浄化施設では冬場に水が干上がってしまうが、タニシが死滅して腐敗臭がしている。一部を常に水が少しでも流せるように対応してもらえないか。

（関係団体）ヨシ原浄化施設での冬場の干し上げエリアは、一方でクイナ類の良い餌場を提供しているので、水を流す場合は水深を浅くするなどの配慮が必要である。

（関係団体）遊水地自体がコウノトリ・トキの生息環境を良くすることが大事である。7～8 月のように、ヨシが高く生えている中では、コウノトリがそこを利用するとは思えない。湿地再生によって、水辺が現れているが、渡良瀬遊水地がコウノトリ・トキの生息環境として、どこまで有効なのかをきちんと評価して、どう環境整備していけば良いかという視点がないと、渡良瀬遊水地の特徴を出しにくいのではないか。

（議　長）現在、渡良瀬遊水地では試験掘削を行っているが、今後はコウノトリ・トキの採餌環境の視点からの掘削方法なども必要になってくるかもしれない。

（関係団体）餌が豊富かどうかは、鳥が選んだ場所から教えてくれる。生息できる場所を作るためには、市・町の取組みが大きな影響を与えるため、とても重要となる。市・町として、荒廃農地の対策などをどうしていくかなどもあり、ここでの議論の内容は、市・町が大きく取り組んでいくべきものではないか。

（有識者）田んぼ等での調査方法を統一する取組みを江戸川河川事務所で行っている。もっと多くの人で調査ができればと思う。渡良瀬遊水地エリアでも周辺の市民の皆さんと大規模な生きもの調査ができればと思う。

（議　長）渡良瀬遊水地エリアでは小山市や栃木市でも市民レベルでの調査が行われているので、そうした取組みと連携していければ良いと思う。

（議　長）資料３の 11 ページの現状と課題について、3 番目の地域振興・経済活性化については、ラムサール条約のワイズユースと交流・学習という視点を上手く整理した形でまとめてもらいたい。もう一点は、資料５の最終ページにあるアクションプランの検討については、保全・再生から一気に地域振興・経済活性化に続いているが、その中に保全・再生をもとにして、それを基づくワイズユース、さらには交流・学習があることで、魅力的な地域づくりに繋がる。ラムサール条約の理念そのものを盛り込むことで、渡良瀬遊水地らしいアクションプランにつながると思う。

■まとめ（議長より）

今回の会議資料を見て、エリア内の各自治体においてもさまざまな取組みが既に現在進行中であることを知りました。ここに参加されています各主体がそれぞれの役割を認識し、いっそう積極的に取組んで頂きたいと思います。また、今後、取組みを体系化するために策定する「アクションプラン」づくりにも、ご協力の程、よろしくお願いします。

以上